

## 第1回、第2回富山県文化審議会の意見要点

## 1 文化活動への幅広い県民の参加

## ア 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実

- ・文化から排除せず、様々な人たちのアクセスを保障する。(伊藤委員)
- ・創造する人と享受する人を出会わせていかに創造性を開発するかが課題(池上委員)  
\*斜体は、第1回審議会意見。以下同じ。
- ・享受する側にも、鑑定し、本物を見分ける「目利き」が重要(伊藤委員)
- ・美術館がもっと町に出て行き、もっと若い人々に親しんでもらえる場にすべき(石川委員)

## イ 新しい文化の創造への支援

- ・創造する人間や創造の成果を享受できる人づくりが課題(池上委員)
- ・享受する側のリーダーになっていくような目利き、批評といったような視点の育成。(伊藤委員)
- ・子どもたちは指導者と運命共同体であり、指導者の育成が大切(土合委員)

## ウ 文化を通じた交流・文化活動への参加の拡大

- ・高齢者、障害者が文化に参加できる権利を保障していく。(伊藤委員)
- ・芸術と文化というものをもう少し多角的な角度で繋いでいくような形でのNPO等、市民が参加していくような仕組みを作っていくこと。(伊藤委員)
- ・インターネットの中でどのような交流を仕掛けていくかということも必要になる。(伊藤委員)
- ・富山県立文学館の創設、あるいは文学館という独立したものでなくても、コーナーなり、ワンフロアでもよいのでそういう可能性がないか。(畠山、吉田泉委員)
- ・富山県は図書館が日本でいちばん普及率が高い県なので、図書館をもっとうまく活用しなければならない。図書館というものをうまく活性化をさせる政策というものが、結果的には文学館に変わる。(伊藤委員)
- ・一番大事なことは、文化情報ネットワークを支える人たちを作っていくということ。技術よりも、文化を残す、文化を伝えたいという意識を持ってその活動に取り組む人たちをどう作るかだと思う。(山西委員)
- ・歴史的な町並みや集落は素晴らしいものがある。岩瀬の町など町並みを再生することによって、ガラス造形の方、陶芸家、食文化に係わる方が入ってきて活動してい

る。( 上野委員)

- ・地域に密着した空き店舗等気楽に文化活動の発表の場を設けることが望ましい

( 上野委員)

- ・賑わいの場を取り戻すこと、コミュニティを再生することは、文化政策の根本的な課題( 池上委員)
- ・人が歩いて、楽しくくつろげるような文化とか芸術といったうるおいのあるまちづくりが必要( 池田委員)

## エ 子どもたちの文化活動の充実

- ・作り手よりも見る側を育てなければ文化はなかなか伝わらない。学校の教育現場で地域行事に親子が参加するものに取り組んでいただきたい。( 堤谷委員)
- ・学校で総合の時間に地域と連携した活動を行っているが、トップダウン的に方針を出さないと、なかなか学校の中では難しいのではないか。( 山西委員)
- ・より多くの鑑賞者を作っていくことが大事。次代を担う子どもや若者にもっと重点を置いた表現と、これからの施策について協力いただきたい。( 舟本委員)
- ・「国際ポスタートリエンナーレ」をもう少し県民に周知できたら良いと思う。学校

か

らも、もっと来て見ていただきたい。小・中学生、高校生、若い人に来て見ていただきたい。( 石川委員)

- ・3歳から始めたバレエも、中学校へ行くと部活動に入らないといけなため続けられない。部活動は学校教育の一環であって、その環境の中で自分がやってきたものをなかなか次に積み重ねていくことができない。( 可西委員)
- ・今年、県立博物館、美術館等が無料になったが、なかなか利用には繋がっていない。( 高畑委員)
- ・親子で一緒にやるということが非常に大事なのではないか。学校で子どもだけというのではなく、先生も、親も含めて一緒にやるということが必要。( 若林委員)
- ・産業構造の転換により、サービス業中心の社会に。子どものうちからどれだけ優れた芸術に触れているか、体験しているか等が国や地域の競争力を決定( 平田委員)
- ・さらに、子どもたちの育成のため、文化、芸術の環境づくりに努めたい。( 可西

委

員)

- ・小さいうちから、感性が豊かなときこそ、文化を経験させてあげるのが重要( 大谷委員)

- ・子どもたちはすごく純粋で心が真っ白であり、それに色をつけていくのが大人の働きかけである。子どもの興味が湧くような働きかけをすべき（堤谷委員）
- ・中高生は大人の作品を見ることや一般の方に活動を見てもらうことで育つ。（高畑委員）
- ・学校教育で、間違った教育をしてしまうと、芸術離れをしてしまう。そういうことにならないよう教育を考えていかなばならない。（斎藤委員）
- ・生け花には、精神的なものも含まれており、そういったものを学校教育で教えていただきたい。（酒井委員）

## 2 質の高い文化の創造と世界への発信

### ア 優れた文化の創造と人材育成の拠点づくりを進め、世界への発信を促進

- ・富山県の財産や誇りとして共有できるようになれば、本当に素晴らしい。（齋藤委員）
- ・質の高い創造者を育てるためには、優れたリーダーが必要。優れたリーダーのそばで、その人の仕事の仕方を見て、共に仕事をするのが一番勉強になる。（齋藤委員）
- ・国際的な競争力。富山のブランドイメージを高めるために、芸術、文化で何か発信していくことが重要（平田委員）
- ・県の役割は、人材育成とネットワークづくり、人材派遣に絞り、国際発信力を持った作品づくりにもっと力を入れてもいいのではないかと。（平田委員）

### イ 特色のある国際交流事業の展開と発信

- ・「国際ポスタートリエナーレ」は世界に誇れるポスター公募展である。（石川委員）
- ・子どもたちの文化交流によって世界平和に繋がる。（舟本委員）
- ・日本文化を評価したり、気づいたり、自慢に思ったり、そしてそれとは違う外国のものに対して尊敬を払うことに気づいていくことも必要（斎藤委員）

### ウ 伝統文化の発掘と県民による再認識と発信

- ・おわらは全国的に名声を博して大勢の方が来られるが、こきりこ、むぎやはおわらに負けないだけの人を呼ぶ力がある。曳山については、曳山の文化をこれだけ数多

く持っている地域は全国的にみても数少ないが、倉庫に入ったままのところも結構あるので、再発掘しないと全国に発信することはできない。( 上野委員)

- ・富山県には、祭りや住宅など素晴らしい文化があるにもかかわらず、その価値が県民に認識されていない。( 上野委員)

## エ 情報通信技術を活用した新しい文化の創造と発信

- ・フェスティバルがある時、創造と発信という場合に、単なる宣伝ではなく、その期間を一つの核として、食や交通、宿泊などいろいろな問題のコーディネーター的役割を県にやっていただきたい。( 池田委員)
- ・利賀演劇祭の際に、ツアーのようなものがあれば参加しやすい。( 堤谷委員)
- ・県内のお祭りや町並みなどを繋いで、外部に対し宣伝することも考えられる。( 齋藤委員)

## 3 計画の期間について

- ・5年後くらいに何らかの形でその進行状況を確認できるような形に( 伊藤委員)
- ・5年という期間にある程度、もう少し重きを置いて計画を組み立てたほうがいい。( 吉田会長)
- ・成果が有効に形に現れるように、5年というのが時間的にいちばんいい。( 上野委員)
- ・5年は一つの区切りだと思う。( 金山委員)
- ・文化を語るときに、もっと長いスパンで遠くの未来を見据えた考え方で文化というものを捉えていかなければならないのではないかと。( 舟本委員)

## 4 その他

- ・「出かけない理由」の「出かける時間が少ない」と「関心がない」というのは同じではないか。( 金山委員)
- ・アートマネジメントという形で芸術を支える人材育成をこの10年行っているが、人材を育てても地域で就職できないという問題がある。地域で働いて、そしてまた、次の後継者を作っていけるという循環ができるような仕組みを構成していく。( 伊藤委員)

- ・実際に成果を見るということ考えたとき、実行する仕組みの方が大事なのではないか。どこでもやっているやり方ではなく、富山県独自のやり方が創出できれば素晴らしい。( 齋藤委員)
- ・5年後のアウトカムの状況、成果の目標というものをイメージしていく必要がある。そのために、作り手側の実態に関するデータ、文化的な産業の状況、中継し、交流し、媒介していくような、あるいは支えていくようなデータに関して、現状を把握し、目標設定する必要がある。( 伊藤委員)
- ・ここに配られたものと、次にまとまって出てきたものがどれくらい違ったか、どのくらい分かりやすくなったか、どのくらい5年後にこんなふうになるというイメージができるようになったかということ、次の審議会の中で確認することになると思う。( 吉田会長)
- ・行政、学校、民間のネットワーク形成ができればと願っている。( 大谷委員)
- ・プロの立場、アマの立場、ボランティアの立場で文化の捉え方は違う。( 金山委員)
- ・文化に経済的な効果を求められる状況にはむなしさを感じる。( 金山委員)
- ・日本はちまちましている。思い切った文化行政が必要( 吉田泉委員)
- ・計画を立てるときに優先順位をはっきりすべきである。( 平田委員)
- ・最終的には、かなり優先順位をつけた明快な方向性が分かるようにまとめたい。( 吉田忠会長)